



Linguaskill リンガスキル

History 開発経緯

ケンブリッジ大学英語検定機構 (Cambridge Assessment English)による最初のコンピューター適応型テストの開発は、1980年代初頭に遡ります。

1994年、人材派遣会社大手のマンパワー (Manpower) 社から、ケンブリッジに「テンプスタッフの配置に活用できる英語テストが欲しい」と求められたのがきっかけでした。

その際、テストに求められたのは、

- どのオフィスでも管理できる
- オンデマンドで利用可能
- テストを採点するのに特別な資格のあるスタッフを必要としない
- テスト時間は短く、しかも可能な限り信頼できるものでなければならない
- 一般的なビジネス環境において、受検者の実用的な言語能力を正確に特定しなければならない

という条件でした。これらの要件を前提として考えた結果、コンピューター適応型テストが最適なソリューションであるとの結論に至りました。幅広い英語のレベルにわたって正確に測定できること、しかも比較的テスト時間は短いという点も管理する側にとって都合が良いという利点がありました。

最初の「Linguaskill」はDOSで開発されていました。1996年には、Windowsのマルチメディア版に置き換えられ、その後ヨーロッパを中心とした多くの国で試行され、さらにはメキシコや日本でも試行されました。

コンピューター適応型テスト（以下、CAT）の使用が成功し、さらに多くのテストプロジェクトが実施されました。その中には、CommuniCAT（2000年欧州学術ソフトウェア賞受賞）があり、この技術を活用したのが BULATS Online（ブラッツ オンライン版テスト）です。

2016年に新バージョンのLinguaskill（リンガスキル）が発表されましたが、リンガスキルは BULATS の最新バージョンであると説明されています。新バージョンのリンガスキルには、[BULATS](#)と同じテスト問題作成法を活用、他のケンブリッジ英語試験との関連性、Cambridge English スケール、アイテム選択、信頼性、妥当性、そして適応アルゴリズムに至るまで、BULATS の優れた特性が余すところなく盛り込まれています。よりコンテンツが新しく高度な適応エンジンで動く点がリンガスキルの最たる改良ポイントと言えます。

なお、テスト結果の正確さと信頼性を保証するために、日本を含む世界 50 カ国から 40 以上の言語の母語者にトライアルに参加いただき、新テストを大勢の方に体験いただきました。